

ドル/円相場のトレード戦略

■ 中長期展望

【ドル/円 週足】



2017年は前年のトランプ・ラリーの流れを受け、年初に118円60銭の高値をつけました。

2016年12月にFRBが利上げを実施、堅調な足取りを続ける米国経済を前提に本年も継続的に利上げが実施されると予想されること、トランプ新大統領の経済政策（大規模なインフラ投資、大幅減税）への期待を背景にドルが上昇するシナリオが市場の大勢を占めていました。

しかし、実際には年初の118円台が今年の高値となり、ドルは軟化し4月には108円13銭の安値をつけています。

ドル安の背景には、米新政権の経済政策実施が遅延していること、シリア攻撃に端を発した地政学リスクの高まりを受けた北朝鮮リスクの顕在化、さらにはトランプ政権のロシアゲート疑惑などが挙げられました。

その後は114円37銭まで値を戻すも、108円81銭まで下落、114円49銭まで再浮上後再び110円割れとなり、9月に入ってから107円32銭まで安値を更新しました。

110円前後の方向感の無い相場が続いていましたが、ややドルの下値不安が大きくなってきています。

9月に入ってからドル安・円高の背景には、FRBが年内後一回以上の利上げを行うとの期待が交代したことと、北朝鮮リスクの高まりが挙げられるでしょう。

北朝鮮は、大陸間弾道ミサイルの発射や大規模な核開発実験など、米国をはじめとした国際社会への挑発を強めており、軍事的緊張の高まりがマーケットをリスク回避姿勢へと向かわせているといえます。

ただし、地政学的リスクからのリスク回避による円高は短期的には大きな変動要因といえるものの、

ドル/円相場のトレード戦略

中期的な為替相場の方向性は米国のファンダメンタルズに左右されるものと考えます。

その点では、利上げ期待がやや後退している米国経済ですが、本当に減速に入るのか、又は再び堅調推移が確認されるのかに留意が必要といえるでしょう。

基本シナリオとしては、米国の経済が堅調推移を維持していることを前提としてドルが回復するものの、上値も限られたものとなり、再び110円～113円のレンジ取引に戻りながら年末を迎えるものと予想します。

■短期展望

先週は、北朝鮮の核実験強行を受け、週明けのドル/円は前週末終値110円前半から約1円も急落する波乱含みの滑り出しとなりました。その後、週間高値109円92銭まで反発しましたが、週後半に向けては上値を切り下げながらじり安に推移、週末の北朝鮮リスク回避の円買いの動きもあり、節目の108円を抜け一時週安値となる107円32銭まで急落し、107円台で週を越えています。今週は、週末に北朝鮮の新たな挑発行為が無かったことを受けて108円台を回復してスタートしました。しかし、北朝鮮リスクはくすぶったままであり、目先ドルの上値は重い状況が続きそうです。

ただし、市場の焦点は徐々に再び米金融政策の行方に向かってくるものと考えられ、前回高値の110円台半ばが視野に入ってくる可能性が考えられます。

したがって、今週は北朝鮮リスクに留意しながらも、一段の安値更新は回避され107円半ばから109円半ばのレンジでドルの反発余地を確認する動きになるものと思われる。